

第2回【移動平均線基本】パート1

移動平均線はあらゆるテクニカル分析の中でも最も広く使用されているものの1つで、ジグザグに動く価格をなだらかな線として表すことで、相場の方向性が視覚的にとても解かり易く捉えることが出来るという特徴があります。

まず移動平均の算出の方法ですが、計算式はいたって単純です。例えば5日移動平均線と言えば、直近の5日間の終値を合計し、5で割れば算出できます。

25日移動平均線と言えば、直近の25日間の終値を合計し、25で割れば算出できますし75日移動平均線と言えば、直近の75日間の終値を合計し、75で割れば算出できます。

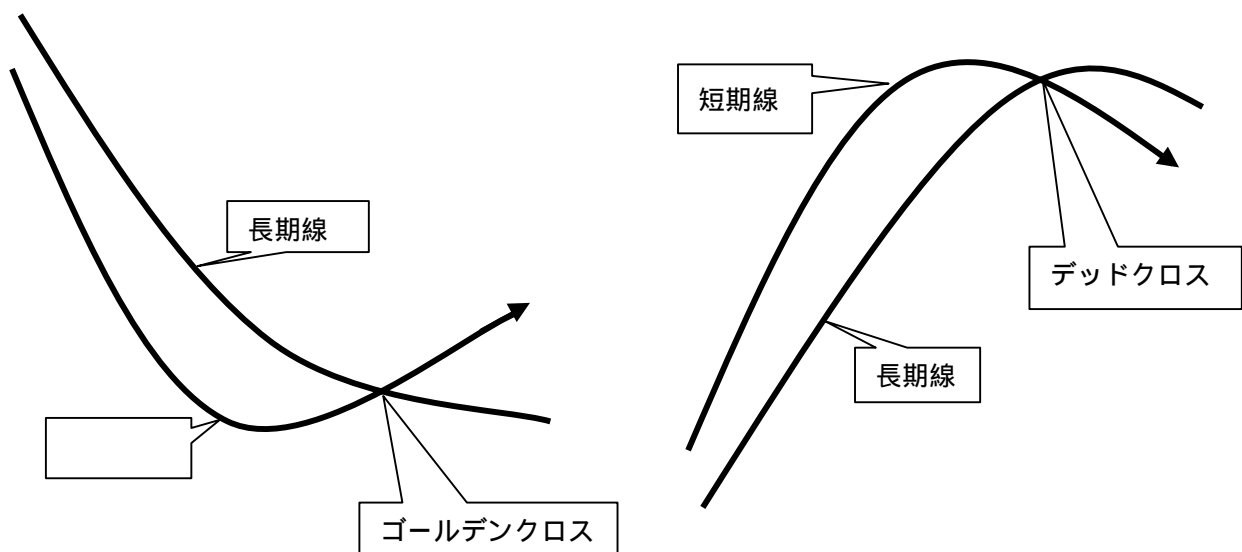
又13週移動平均線の場合は13週間の週末の終値を合計し13で割れば算出できます。26週移動平均線の場合も26週間の週末の終値を合計し26で割れば算出できるという事です。

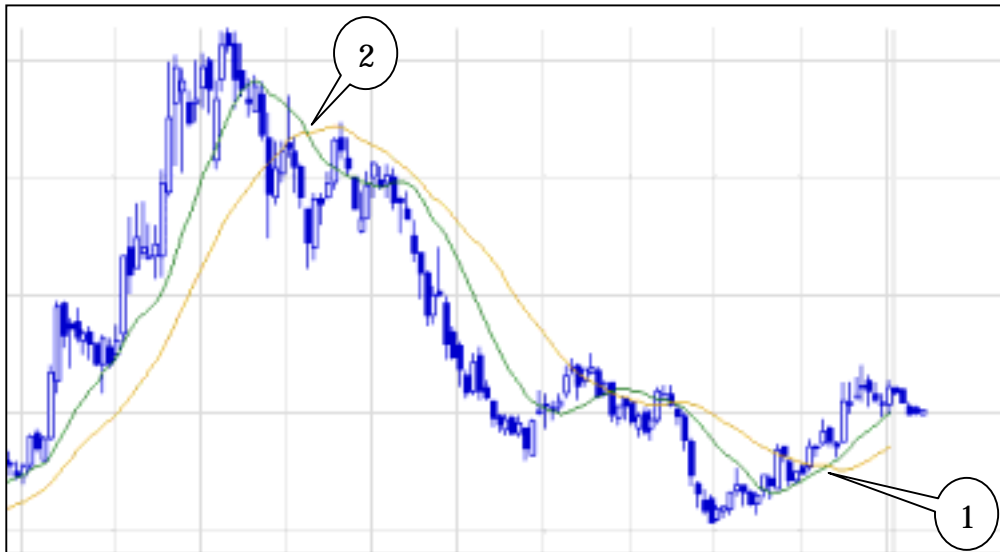
現在最もポピュラーに使われているのが日足では25日線と75日線の組合せであり、週足では13週線と26週線の組合せです。

なぜ2本の線を使うのかと言うと2本使う事によって買いシグナル又は売りシグナルを出す事が出来、1本の移動平均線を使うより相場に入るのは遅れますが、だましが少なくなるという利点があるからです。

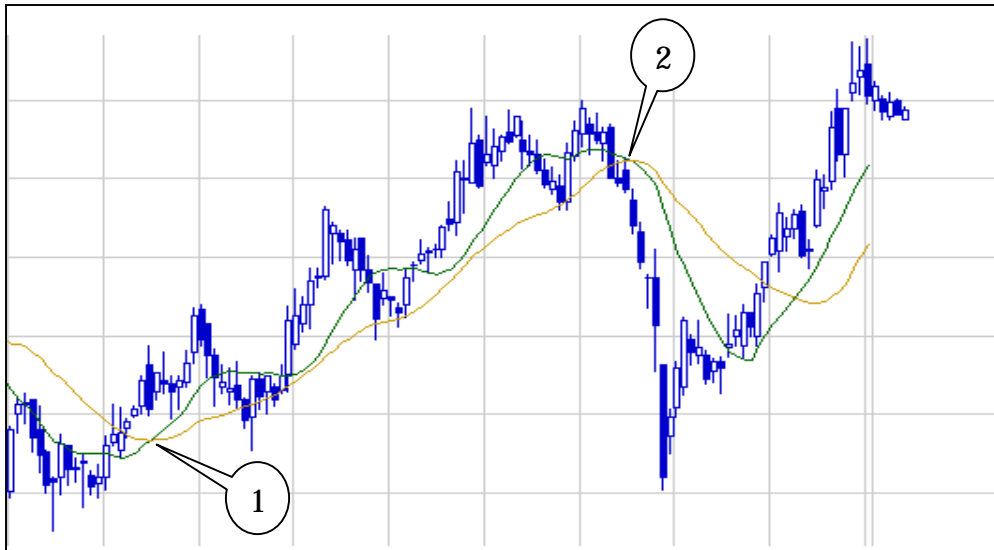
2本の移動平均線を使った売買シグナルには次の2つがあります。1つは短期線が長期線を上に切った時の買いシグナル(ゴールデンクロス)であり、もう1つは上昇後の短期線が長期線を下に切った時の売りシグナル(デッドクロス)です。

ゴールデンクロスは相場の大勢が下降局面から上昇局面に転換するポイントとなり、逆に、デッドクロスは下降局面に入るということを意味します。このシグナルは、いずれも転換点の遅行指標としての意味を持ちます。



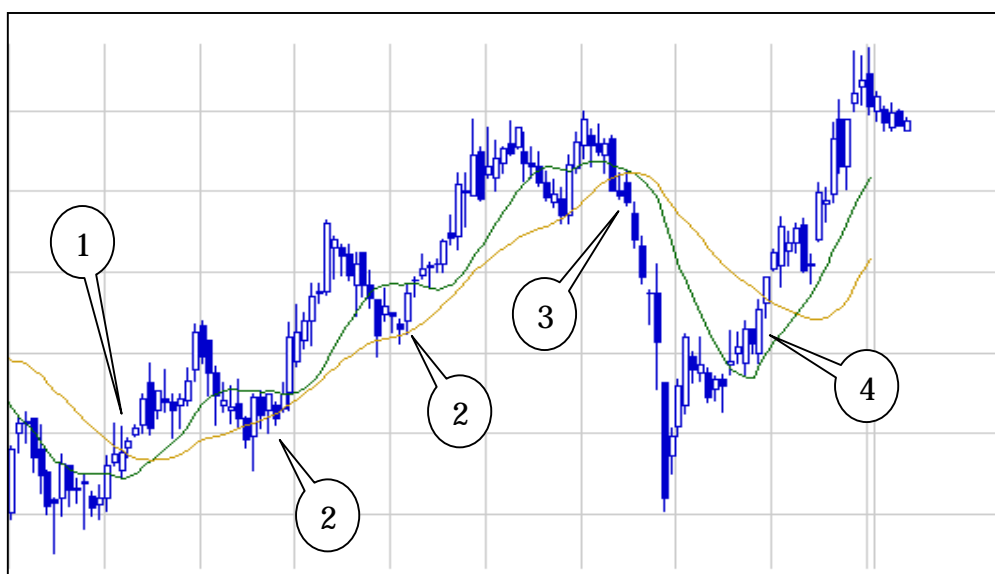
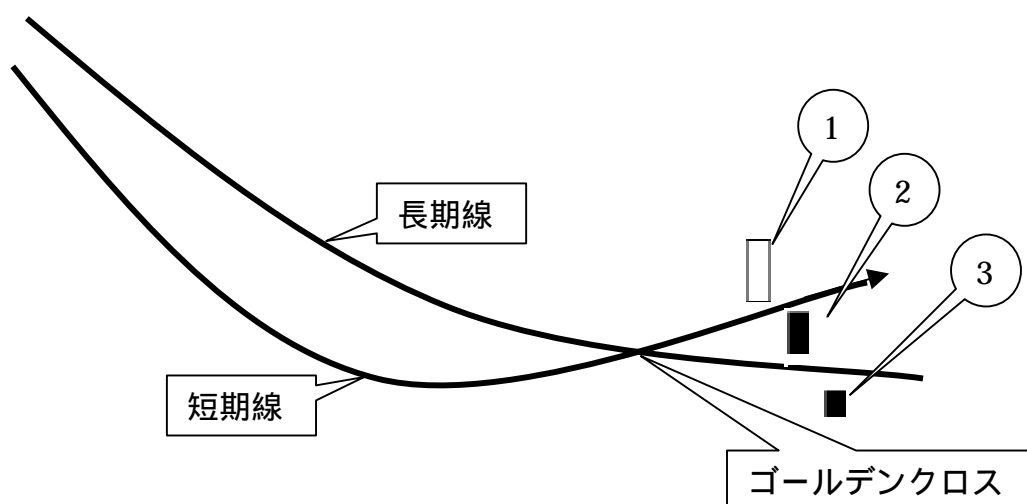


上のチャートの の部分が短期線が長期線を下から上に突き抜ける「ゴールデンクロス」と言われ株価上昇のシグナルとされています。
 その逆に の部分が短期線が長期線を上から下に突き抜ける「デッドクロス」と言われ株価下落のシグナルとされています。



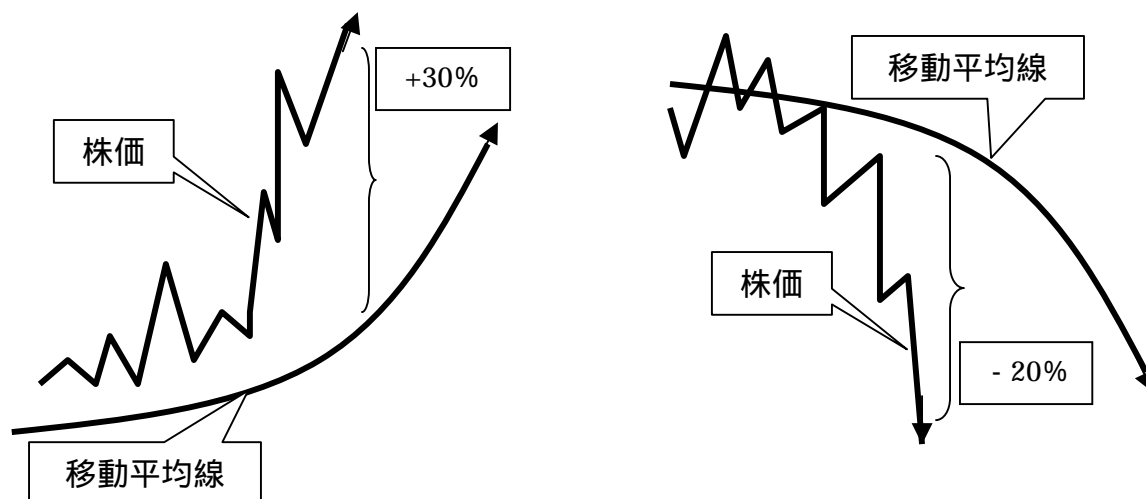
上のチャートの の「ゴールデンクロス」の後株価は一定期間上昇し、 の「デッドクロス」の後株価は一定期間下落しています。
 これが株価と移動平均線の基本的な関係だと理解して下さい。

もう1つの利用法は中立ゾーンとしての利用法です。 株価が両方の移動平均の上であれば買いシグナルとなりますが、 2本の移動平均線の間 = 中立ゾーンに戻ってくれば、様子見（注意）となります。また、 株価が下方の移動平均線の下にあれば、売りシグナルとなります。価格が2つの移動平均線の間にある場合は、すべてのポジションを解消し、様子見場面とします。

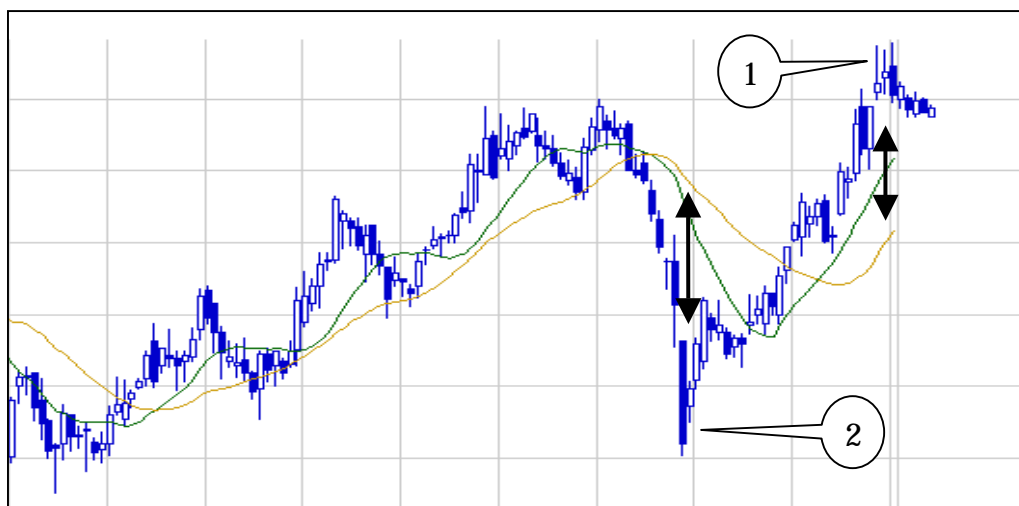


上のチャートをご覧ください。 株価が2本の平均線の上に出て来たので「買い」となります。 株価が2本の平均線の間にあるので様子見とします。 株価が2本の平均線の下に出たので売りシグナルとなります。 株価が2本の平均線の間にあるので様子見です。この後2本の平均線の上に株価が出れば買いシグナルとなります。この様に判断します。

次にプラス乖離、マイナス乖離について説明したいと思います。「カイリ」とは、株価と「移動平均線」との離れ度合の事です。即ち、人気度のバロメーターです。「移動平均線」は基本的には13週移動平均線を使用します。



「プラス・カイリ」とは、株価が「移動平均線」の上にあるケースです。大体、大型株（資本金300億円以上）30%、中型株（300～100億円）40%、小型株（100億円以下）50%を上回ってきますと人気化ゾーン入りと判断します。持ち株は利喰いし、新規買いは「危険」と判断します。「マイナス・カイリ」とは、株価が「移動平均線」の下にあるケースです。人氣が離散していることを示します。一般に、資本金の大きさに関係なく、マイナス20%を超える水準まで下げますと、反発の可能性が高まります。突っ込み買いを検討する時期と判断します。



上のチャートの 1 がプラス乖離であり、 2 がマイナス乖離です。乖離が拡大するとその後株価は移動平均線に向かって反発（反落）する確率が高いと言えます。
第2回 終了